

乳がん遺伝相談外来

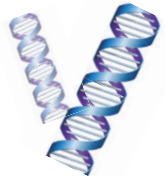
乳がんは女性の最もかかりやすいがんで、年間約10万人発症します。ご家族の中で乳がん患者さんがおられる方も少なくなく、「がん家系ではないか?」と心配されている方もおられると思います。今回は大阪警察病院乳腺内分泌外科にて実施されている乳がん遺伝相談外来についてご紹介いたします。



? がんは遺伝するのでしょうか?

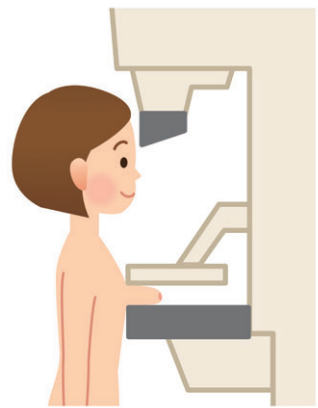
がんは正常な細胞の遺伝子に2個から10個程度の「傷」がつくことにより発生します。傷は一度につくわけではなく、年月をかけて徐々に積み重なります。傷がついてもあまり影響のない部分があれば、非常に重要な部分の傷(ホットスポット)もあります。ホットスポットの傷は遺伝す

ることがあり、傷が早く積み重なることで同年代の人よりも早く発症します。同じ傷が原因で家系内で複数の発症をみると「遺伝性腫瘍」と呼ばれます。



? 乳がん遺伝相談外来とは?

乳がん患者さんのうち約5%はBRCA1/2と呼ばれる遺伝子の傷が原因で発症することがわかってきました。この傷は親から子へ50%の確率で遺伝し、2人に1人以上の方が乳がんを、3割以上の方が卵巣がんを発症します。アンジェリーナ・ジョリーが予防的乳房切除を行ったことで急速に知識が広がりました。



- また、2020年4月にはこの検査が条件付きで保険適応にもなりました。
- ① 検査をする上でこの条件にあてはまるか。(自費の場合もあります)
 - ② もしこの傷があるとき、反対側の乳房、卵巣について気をつける点。
 - ③ 血縁のあるご家族の今後の健康を守るための注意点などをお知らせするのが遺伝相談外来です。

患者さんへのメッセージ



大阪警察病院
乳腺内分泌外科 部長
吉留 克英

その他のがんでも、遺伝子の傷が一因であることが次第に明らかにされてきています。同じ種類のがんだけでなく複数のがんが同じ遺伝子の傷が原因の場合もあります。「がん家系かな?」と疑問に思われたら各科担当医師にご相談ください。